



東光寺小学校学校運営協議会通信

No.28

東光寺小学校学校運営協議会発行

令和2年8月3日

会長 奥住 方彦



東光寺小学校の大応援団『学校運営協議会』

副校長 みずの 水野 むつこ 睦子

4月に副校長として着任いたしました水野睦子と申します。歴史と伝統のある本校に着任し、3か月が過ぎました。正門を一步入るといつも季節の花が満開で、まさに「花と笑顔と地域の見守り」の学校だと感じています。学校便りの5月号にも書かせていただきましたが、地域の皆様が東光寺小学校を愛してくださり、子供たちを宝物のように毎日見守ってくださっていることに、日々感謝の気持ちで一杯です。

今年度も、本校の応援団ともいえる「学校運営協議会」を年7回開催いたします。12名の委員の皆様は、本当に東光寺小学校を、そして教職員の頑張りを心から応援してくださっている方々です。

私は、改めて「学校運営協議会制度」の経緯について調べてみました。平成27年2月に中央教育審議会答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」を踏まえ、学校運営協議会の設置の努力義務やその役割の充実などを内容とする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、平成29年4月1日より施行（地教行法第47条の5）されました。

学校運営協議会には、主な役割として、以下の3つがあります。

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べるができる。
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

保護者や地域の方々が一定の権限をもって学校運営に参画することにより、目標やビジョンを共有して、社会総がかりで子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的としています。

昨年度の開校40周年記念事業で築き上げた保護者・地域・関係諸団体との交流・対話を更に深め、家庭・地域と共に教育活動の一層の充実を図っていきます。コミュニティ・スクールとして、地域との双方向のつながりを大切に、何かをしてもらうだけでなく、地域のために貢献できる子供たちを育成していきます。また、教職員も積極的に地域と関わりをもつよう努力して参ります。

本年度も、ご理解、ご協力をお願いいたします。

応援メッセージ

過去に経験のない地球規模のパンデミック『コロナ禍』で、人との距離を取ることが言われている今だからこそ、心の距離を近づけられたら、との思いで組んだ特集です。

子供たちへ、保護者の皆様へ、教職員へ、学校運営協議会委員よりメッセージをお届けします。



しんがたコロナウイルスによって、わたしたちのせいかつのいろいろなことが、かわってしまいました。がっこうにいけない、しごとにいけない、そとにでられない、ともだちともあえないまいにちに、おとなもこどもも、つかれてしまいました。

でも、がっこうがはじまり、きゅうしょくもはじまりました。つうがくろでは、みなさんのげんきなこえがきけるようになり、おとなたちもうれしくて、げんきをもらっています。

これからも、おとなもこどもも、みんなで、てあらい、うがいをして、ひつようなときはマスクをして、あんぜんにせいかつできるようにがんばっていきましょう。

(正井 和美)

みなさん、コロナであたらしいせいかつスタイルになりましたね。こうなれば良かったんですが、こころやからだのちょうしは、どうですか？

ふあんなことや、こまったことがあったら、かならずちかくのおとなのひとにそうだんして、これからもげんきにすごしてくださいね。(佐藤 彰子)



今年は大変な年になりました。いつも通りに事が運ぶのは困難となっています。しかし、このような状況の中でこそ、ふだんはできないこと、思いもよらないことが、できるようになることもあります。

希望をもって強い子供になるよう、がんばってください。

(速水 亨)

「笑顔あふれる会話のある家庭」「お子さんのよい所を認め合う」ポジティブ思考で、大人が声を出して実践してみましょう。みんなで子供たちを育てましょう！

(下川 和子)

6月15日から、東光寺小学校も通常当校となりました。コロナ禍で、いろいろな領域で壮大な変化が起きています。行動自粛・接触機会削減には、困難な課題もあります。このような中、ソーシャルディスタンスの待機線を作り、机、椅子他消毒作業等々、子供たちの健康を守るため、先生方には日々、様々な取り組みをしていただいています。

新聞に掲載されていたステイホーム特集10歳女の子の作品です。

『今は未来が見えない。でも、いつかこのがまんは終わる。だから世界中でがまん。今は虫に世界をゆずろう。』

読んでいて、元気をもらいました。学ぶことも、遊ぶことも普段通りにはいきませんが、多様な学びの場ができればと思います。今年も半年が過ぎました。どうか負けませんように。

(石川 ちづ子)



これから私たちはコロナ禍とどう戦っていくのでしょうか？どう共存していくのでしょうか？誰も答えられる人はいません。社会、学校教育、家庭環境、子供たちの生活スタイル、地域交流など、様々なことがここ数か月で変わっています。これからも変わっていくかもしれません。今、私たちができることをやるしかありません。私たちができることをやってみましょう。子供たちのために、全力でサポートしていきましょう。まずは自分の健康、安全、安心は自分で守りましょう。

(久松 秀樹)

今年は新型コロナウイルスのため、学校生活もままならない中、児童たちは一生懸命頑張っています。児童の安全のためにも、保護者の皆さんと地域の皆さんと一緒に地元の安全をより多くの方々に理解いただく活動に参加していただき、共に考えて参りたいと思います。お力添えをお願いいたします。

(太田 秀雄)

東光寺小学校コミュニティースクールの委員として10年が経過しました。あまり目立たない存在ですが、学校・子供たちのために地道に活動しています。今、新型コロナ感染拡大の中、学校も本当に大変だと思います。少しでも協力できるよう、我々も頑張っています。

(奥住 方彦)

再開から1か月。「新しい日常」の学校生活、それを追うようにPTA活動、保護者会、地域の見守りが行われるようになりました。4月、5月。多くの児童が自宅で過ごしていた時の学校には、チーム東光寺、学童の指導員の方、調理員の方、登下校時に合わせて見守りをしてくださる平柳駐在さんの姿がありました。日中1人になってしまう児童たちが過ごせる居場所としての学校。「目の前に子供たちがいるのに教えることができないのです」と戸惑いを話してくださった先生。下校後、手分けをしての消毒作業は、今も継続していただいています。本当にありがとうございます。猛暑の中でマスク着用の生活は、誰も体験したことがありません。だからこそ今できることを1人1人しっかりやってみましょう。

(三好 啓子)

学校休校という名目の中、日野市は子供たちを受け入れてくださいました。毎日登下校警戒を行う中、子供が下校した後、先生方が校内を一所懸命消毒してくださいました。毎日その姿を見て、心の中で拍手を贈っていました。先生、ありがとう!!

(平柳 篤)